



Title	北海道大学雨龍地方演習林朱鞠内湖周辺地域のカミキリムシ相
Author(s)	佐々木, 恵一; 林田, 光祐
Citation	北海道大学農学部 演習林研究報告, 50(2), 229-243
Issue Date	1993-11
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/21371
Type	bulletin (article)
File Information	50(2)_P229-243.pdf



[Instructions for use](#)

北海道大学雨龍地方演習林朱鞠内湖 周辺地域のカミキリムシ相

佐々木 恵 一* 林 田 光 祐**

The Longicorn Beetle Fauna in the Area around Lake Shumarinai
in the Uryu Experimental Forest of Hokkaido University

by

Keiichi SASAKI* and Mitsuhiro HAYASHIDA**

要 旨

北海道大学雨龍地方演習林朱鞠内湖周辺地域のカミキリムシ相について調査を行った。現地調査と文献記録から、6亜科79種のカミキリムシの棲息が確認された。調査結果をもとに朱鞠内のカミキリムシ相を苫前、東川両地域と比較した。朱鞠内のカミキリムシ相の特徴は

(1)日本では北海道のみに分布する北方系種の種数が多い。

(2)アカエゾマツ、トドマツ、カンバ類の亜寒帯性樹種を食樹とする種数が多く、冷温帯性広葉樹を食樹とする種数が少ない。

このような特徴が出現する要因として、北海道有数の多雪寒冷地の気候条件と、アカエゾマツ、トドマツ、ダケカンバの優占度が高く、比較的単純な針広混交林の林相が影響していると推察される。

キーワード：北海道北部，針広混交林，カミキリムシ，ファウナ

I はじめに

北海道大学農学部附属演習林では1990年よりプロジェクト研究として野生生物の保護管理に関する研究を開始した。いくつかの個別課題がある中で、最も基礎的な資料である生物相

1993年3月15日受理 Received March 15, 1993

- 北海道昆虫同好会
Hokkaido Insect Lover's Society, Toyooka 9-7, Asahikawa 078
- 北海道大学農学部附属雨龍地方演習林
Uryu Experimental Forest, Faculty of Agriculture, Hokkaido University, Nayoro 096

の記載が不足していることが指摘されており、その充実が望まれている。

そこで、同演習林では1990年から北海道昆虫同好会との共同調査として、北海道大学雨龍地方演習林の朱鞠内湖周辺地域に棲息する昆虫相の調査を開始した。同地域は数種の北方系のカミキリムシが分布することから、カミキリムシについては従来多くの採集、調査がなされ、文献も多数報告されている。

本論文では、上記共同調査及びそれ以前の北海道昆虫同好会会員による採集記録に文献記録を加えたカミキリムシ科のリストを作成し、同地域のカミキリムシ相の特徴について論じた。

なお、本調査に格別のご協力をいただいた松田彊林長をはじめとする北海道大学雨龍地方演習林職員の皆様、調査に参加された北海道昆虫同好会会員の荒木哲、石田浩司、志藤宏、菅原豊の各氏、写真撮影をいただいた鈴木敏春氏に深謝する。また、古丹別営林署及び旭川林務署からは貴重な資料を提供いただいた。記して感謝の意を表する。

II 調査地と調査方法

北海道大学雨龍地方演習林は北海道空知支庁管内の最北端、北緯44度、東経142度に位置し、標高300~900mのなだらかな山岳地帯である。年平均気温は3℃、冬季最低気温が-30~40℃、最深積雪が2mをこえる、北海道有数の多雪寒冷地域である。

今回調査の対象とした地域は、同演習林の朱鞠内湖に面する朱鞠内、湖畔、宇津内(蔭ノ台)、白樺、ブトカマ、母子里、蔭ノ沢の各地域である。本調査地域(以下朱鞠内と略す)の大半は天然林であり、針広混交林で占められている。構成樹種は主にトドマツ、アカエゾマツ、ミズナラ、ダケカンバ及びシラカンバで、他にイタヤカエデ、シナノキ、ヤチダモ、ハルニレ、ケヤマハンノキ等が混交している。エゾマツは母子里周辺に局所的に分布するのみで、代わりにアカエゾマツが混交林の主要な樹種になっているのが特徴である。

朱鞠内の典型的林相と考えられる母子里観察林内の長期観察林(0.5ha)では胸高断面積でトドマツ43%、ミズナラ32%、アカエゾマツ8%、ダケカンバ6%と、この4種で89%を占める(母子里長期観察林、未発表)。アカエゾマツが優占する林(1ha)では蓄積でアカエゾマツ39%、トドマツ34%、ダケカンバ11%、ミズナラ11%と、95%をこの4種で占める(SIMARANG-KIR, 1987)。また、トドマツ-ミズナラ林では蓄積でミズナラ56%、トドマツ31%、ダケカンバ5%と、3種で92%を占める(泥川長期観察林、未発表)。このように、優占種4種の占有率が非常に高い。出現する高木種はそれぞれ12種、15種、11種である。

今回の調査方法は、朱鞠内に自生する樹木(生木、衰弱木、立枯等)や花(エゾニユウ、ノリウツギ及び演習林作業所敷地のハシドイ等)及び土場の伐採木などに集まるカミキリムシを採集し、採集された樹木や花の種類、生態に関する事項をできるだけ記録した。なお、これらの調査方法は今回の共同調査以前の北海道昆虫同好会会員による調査、及び文献に報告されている採集記録についても概ね同じである。

本論では、朱鞠内のカミキリムシ相の特徴を把握するため、すでにカミキリムシ相が明らかになっている2地域の調査結果と比較した。比較対象地域は、朱鞠内と地理的条件に近い苫前(苫前町霧立及び古丹別)と東川(東川町江卸、野花南、及び隣接する美瑛町忠別、東神楽町志比内)を選択した。苫前については荒木ほか(1988)、東川については荒木ほか(1989)からデータを引用した。いずれも今回と同様の方法で調査している。

苫前の調査地は、古丹別営林署管内の針広混交林で、1984年の同営林署の標準地調査(0.75 ha)によると、蓄積でトドマツ(26%)、ミズナラ(27%)、ダケカンバ(13%)、イタヤカエデ(19%)が優占し、他にシナノキ、ハルニレなどの広葉樹が混交する。出現した高木種は13種であった。

東川は、旭川林務署管内の針広混交林で、1984-85年の同林務署の標準地調査(2.2 ha)によると、蓄積でトドマツ(20%)、エゾマツ(11%)、ミズナラ(16%)、シナノキ(12%)を主としてアカエゾマツ、シナノキ、カンバ類、イタヤカエデなどが混交する。出現した高木種は25種で、他の2地域と比較すると広葉樹の種数が多い。

III 結 果

北海道昆虫同好会会員による調査及び今回の共同調査により朱鞠内から記録されたカミキリムシは66種であった。これに文献で記録されている13種を加えた79種が、現在までに朱鞠内に棲息することが確認された種である。種名及び記録については本文末のリストを参照されたい。

朱鞠内のカミキリムシ相の概略を把握するため、亜科別種数について、朱鞠内、苫前、東川の3地域を比較した(表-1)。朱鞠内と苫前は総種数ではほぼ同じであり、東川は朱鞠内の約1.5倍である。朱鞠内は他の2地域に対して、ハナカミキリ亜科が多くフトカミキリ亜科が少ないことがわかる。

次に、記録されたカミキリムシの分布型別種数について、朱鞠内、苫前、東川の3地域を比較した(表-2)。分布型は、日本鞘翅目学会(1984)に基づき、朱鞠内、苫前、東川で記録された種を次のI~V群に分類した。

- I サハリン・シベリアなどに分布し北海道がその分布の南限(日本における北海道特産種)
- II サハリン・シベリアから北海道を経て本州の山岳地帯まで分布
- III サハリン・シベリアから北海道を経て本州以南まで広く分布
- IV 北海道と本州の山岳地帯にのみ分布し北海道がその分布北限
- V 本州以南まで分布し北海道がその分布北限

朱鞠内は他の2地域に対して、I群に属する種数が多いことがわかる。

さらに、主な食樹別のカミキリムシの種数について、朱鞠内、苫前、東川の3地域を比較した(表-3)。食樹の特定に当たっては、調査において幼虫の食害、成虫の羽脱、産卵行動な

表-1 3地域の亜科別構成種数

Table-1: Numbers of species in 6 sub-families each study area.

亜科	朱 鞠 内		苫 前		東 川	
	種 数	%	種 数	%	種 数	%
ノコギリカミキリ亜科	1	1.3	2	2.6	1	0.9
ホソカミキリ亜科	1	1.3	1	1.3	1	0.9
マルクビカミキリ亜科	5	6.3	2	2.6	3	2.5
ハナカミキリ亜科	31	39.2	16	20.5	24	20.5
カミキリ亜科	20	25.3	20	25.6	33	28.2
フトカミキリ亜科	21	26.6	37	47.4	55	47.0
計	79	100.0	78	100.0	117	100.0

表-2 3地域の分布型別種数

Table-2: Numbers of species in 5 distributional groups in each study area.

分 布 型	朱 鞠 内		苫 前		東 川	
	種 数	%	種 数	%	種 数	%
I 群	16	20.3	6	7.7	9	7.7
II 群	10	12.7	8	10.3	16	13.7
III 群	21	26.6	28	35.9	31	26.5
IV 群	4	5.0	3	3.8	5	4.3
V 群	28	35.4	33	42.3	56	47.8
計	79	100.0	78	100.0	117	100.0

(I~V群の分布は本文参照)

表-3 3地域の食樹別種数

Table-3: Numbers of species in host tree species in each study area.

食 樹	朱鞠内	苫 前	東 川
アカエゾマツ	23	12	14
トドマツ	24	19	23
カンパ類	25	22	19
上記3種のいずれか	48	34	36
ミズナラ	18	26	32
上記4種以外の樹種のみ	17	29	47
不明	8	3	9

(複数の食樹を持つ種の場合は重複して入れる。)

どその樹種を食樹とすると認められた観察例, 調査において成虫が立枯, 衰弱木, 伐採木に飛来するなどその樹種を食樹とする可能性が高いと認められた観察例, 調査では観察されなかったが他の地域においてその樹種を食樹とするあるいはその可能性が高いと認められた観察例, 文献記録(主として, 小島, 中村(1986)から引用)を根拠とした。苫前, 東川の2地域もこれと同様の方法をとった。朱鞠内は他の2地域に対して, アカエゾマツ, トドマツ, カンパ類を食樹とする種が多く, ミズナラとその他冷温帯性落葉広葉樹を食樹とする種が少ない。

IV 考 察

朱鞠内のカミキリムシ相の特徴の1つは, 表-2のI群, すなわち北海道をその分布南限とする種(北方系種)が他の地域に比較して多いことである。これらの種は北半球の北方に広がる針葉樹林帯の環境に適応するものと考えられている(小島・林, 1974)。

カミキリムシの幼虫はごく一部の草本植物を食害する種を除き、ほとんどの種が樹木内部に穿孔しその組織を食べて成長する。多くの種は食樹とする樹種が一定範囲に特定され、ある種のカミキリムシとその食害する樹種との間には寄生関係が成立している。したがってある地域のカミキリムシ相はその地域の林相によってかなりの部分が決定されると考えられる。

朱鞠内にアカエゾマツ、トドマツ、カンバ類の亜寒帯性樹種を食樹とするカミキリムシの種数が多く(表-3)、冷温帯性樹種を食樹とするカミキリムシが少ないのは、2地域と比較して亜寒帯性樹種の優占度が高く、冷温帯性樹種の種類数が少ないためと推察される。

では、朱鞠内ではミズナラの優占度が高いにもかかわらずミズナラを食樹とする種が他地域よりも少ないのはなぜか。これまでの分布上の知見では、カミキリムシの分布域とその食樹とする樹種の分布域は必ずしも一致しない。例として、朱鞠内に分布するアイヌホソコバネカミキリについて見ると、その分布域は食樹とするダケカンバの分布域に比べて極端に小さく、この種が棲息する条件に林相以外の要因が関わっていることが推測される。このアイヌホソコバネカミキリ及びヨコグロハナカミキリ、ムツボシアオコトラカミキリの3種はいずれも表-2のI群に属し、国外ではいずれも北海道から北のサハリン・シベリアに広く分布するが、北海道の中では朱鞠内を含め非常に限られた地域にしか分布が認められていない。これまでに記録されている地域(文末リスト説明参照)を見ると、札幌を例外として、朱鞠内と並び北海道有数の寒冷地気候で知られる陸別町小利別をはじめ、いずれも冬季の最低気温が低い地域である。このことは、気候条件が地域のカミキリムシ相に影響を及ぼす要因のひとつである可能性を示唆するものと考えられる。ミズナラを食樹とするカミキリムシも同じ要因で制限されていることが考えられる。

しかし一方で、地域による食樹転換の事実も見逃せない。朱鞠内に棲息するカミキリムシのうち、従来の記録から北海道ではダケカンバなどのカンバ類を主な食樹とすると見なされる種は、アイヌホソコバネカミキリ、ムネモンチャイロトラカミキリ、クワヤマトラカミキリ、ツマキトラカミキリの4種にすぎない。しかし、他地域では別の樹種を食樹とする種が朱鞠内では主にダケカンバを食樹とすることが観察されている(セアカハナカミキリ、オニホソコバネカミキリ、ホソコバネカミキリなど)。例えば、オニホソコバネカミキリは他地域では一般にヤマグワを食樹としているが、朱鞠内では小田(1978)がダケカンバ立枯への飛来例を報告し、以後もすべてダケカンバから得られている。また、ホソコバネカミキリは札幌市ではミズナラ、イタヤカエデの倒木で多数採集されるが、朱鞠内では吉川(1982)のミズナラから成虫死骸を割り出しなど少数例を除き、ダケカンバの古い立枯に飛来するものが最も多く得られている。1992年の共同調査の一環でダケカンバ伐採枝から羽脱した昆虫の調査から、キスジトラカミキリとトゲバカミキリが確認されている(未発表)。このように、他の地域で別の広葉樹を主な食樹とするカミキリムシが、朱鞠内においてはダケカンバを食樹とする傾向があることが数例観察されている。

このような食樹の転換についてはこれまでほとんど報告されていない。地域による食樹の転換が棲息するカミキリムシ全般について起こるのであれば、地域によるカミキリムシ相の違いはそれほど生じないはずである。しかし実際には表1～3に見るような違いが生じていることから、種によって転換能力が異なることが推察される。

表-3で根拠としたデータは各地域で実際に確認された食樹のみをカウントしたものではないことから、カミキリムシ各種がどの樹種を食樹としているかについて絞り込んだ調査を行い、データを蓄積することが今後の最も重要な課題と考えられる。具体的には、構成樹種各種について、カミキリムシに被害された部位のサンプリングと羽脱するカミキリムシの種、個体数、被害部位、幼虫期生態の調査を進め、成虫の後食、産卵などの活動調査と併せてカミキリムシと食樹の関係を明らかにしていくことが必要であろう。

また、上記の食樹調査により、表-1に示した亜科別種数構成の違いの要因も明らかになる可能性がある。カミキリムシ成虫の産卵活動は一般にフトカミキリ亜科は産卵の際に木に噛み傷を付けて産卵することが多いのに対し、ハナカミキリ亜科やカミキリ亜科では樹皮と材部のすき間やキクイムシなどの飛孔に産卵することが多い(日本鞘翅目学会, 1984)。朱鞠内にハナカミキリ亜科の種数が多いのは、比較的高齢で直径が大きい個体が多いという朱鞠内の林分構造が影響を及ぼしていることも考えられる。

V おわりに

カミキリムシと食樹と関係については、特定の種についてその食樹が判明した際に報告されたデータが蓄積されているものの、限られた地域を対象として、そこに棲息する普通種も含めたカミキリムシ各種がそれぞれどのような樹種を食害し、他の地域と比較してどのような食性転換が見られるのかというような調査はほとんどなされていない。とりわけ北海道においては、カミキリムシの食樹調査そのものがほとんどなされていない状況である。

このため、本論では敢えていくつかの推測を示し、これまでの調査結果では明らかにできなかった問題点を挙げ、今後の調査に対して方向性の提案をする形とした。

今後朱鞠内で上記の調査を実施していくことは、その結果が森林管理技術の発展に寄与するのみならず、昆虫生態学の面からも意義深いものになると思われる。調査開始に当たっての現状認識を得る上で本論が役立つことができれば幸いである。

VI 種別リスト

これまでの調査及び文献記録により朱鞠内に棲息することが確認されているカミキリムシの種別リストを以下に示す。

各種ごとに採集地を示し、未発表の採集記録については頭数、採集年月日、採集者名を、文献記録引用の場合は、著者、発表年を記した。

種名及び種の配列については原則として日本鞘翅目学会 (1984) に従った。

※注1 採集地のうち、プトカマ林道の記録については、従来多くの文献で「母子里」として報告されており、記録上、プトカマ林道と母子里を分けることが難しいので、以下のリストにおいては、プトカマ林道の記録もすべて母子里に含めた。

- 2 日本鞘翅目学会 (1984) において「雨龍湖畔」と記録されているものは、地域の特定ができないので、記録冒頭に日本鞘翅 (1984) として記すにとどめた。
- 3 採集者名で、荒木哲、石田浩司、志藤宏、菅原豊については姓のみで示した。
- 4 採集者名が付記されていない記録は、すべて佐々木恵一の採集による。

- 1 *Prionus insularis* MOTSCHULSKY ノコギリカミキリ
母子里：石田ほか (1980)；1 ♂，17-VIII-1985 (荒木)。
- 2 *Arhopalus rusticus* (LINNE) ムネツヤサビカミキリ
日本鞘翅 (1984)：朱鞠内：石田ほか (1980)：湖畔：石田ほか (1980)：母子里：4 exs., 17-VIII-1985.
- 3 *Megasemum quadricostulatum* KRAATZ オオクロカミキリ
朱鞠内：石田ほか (1980)：母子里：4 ♂♂，2-VIII-1982；2 ♀♀，13-VIII-1983；2 ♀♀，9-VIII-1987.
- 4 *Tetropium castaneum* (LINNE) トドマツカミキリ
母子里：1 ex., 17-VIII-1985；2 ♂♂，3 ♀♀，22~23-VIII-1988.
- 5 *Tetropium fuscum* (FABRICIUS) ツヤナシトドマツカミキリ
母子里：1 ♂，16-VIII-1986.
- 6 *Tetropium gracilicorne* REITTER ホソトドマツカミキリ
母子里：1 ♀，13-VIII-1983；12 ♂♂，14 ♀♀，22~23-VIII-1988.
- 7 *Distenia gracilis* (BLESSIG) ホソカミキリ
母子里：1 ♂，3-VIII-1985 (志藤)。
- 8 *Encylops olivacea* BATES テツイロハナカミキリ
朱鞠内：森ほか (1986)：母子里：1 ex., 17-VII-1981 (石田)。
- 9 *Rhagium japonicum* BATES ハイイロハナカミキリ
母子里：森ほか (1986)。
- 10 *Rhagium heyrovskyi* PODANY エゾハイイロハナカミキリ
母子里：森ほか (1986)。
- 11 *Sachalinobia rugipennis* (NEWMAN) アラメハナカミキリ
母子里：森ほか (1986)。
- 12 *Gaurotes doris* BATES カラカネハナカミキリ

母子里：森ほか (1986)

- 13 *Pidonia amentata kurosawai* OHBAYASHI et HAYASHI セスジヒメハナカミキリ

母子里：森ほか (1986)；1 ♂, 19-VII-1991；1 ♀, 5-VII-1986.

- 14 *Grammoptera chalybeella* BATES チビハナカミキリ

母子里：森ほか (1986)

- 15 *Alosterna tabacicolor* (DE GEER) ホクチチビハナカミキリ

朱鞠内：1 ex., 20-VII-1987 (荒木)；母子里：森ほか (1986)；1 ex., 29-VII-1982 (石田).

- 16 *Pachypidonia bodemeyeri* (PIC) ヒゲフトハナカミキリ

朱鞠内：森ほか (1986).

- 17 *Judolia cometes* (BATES) マルガタハナカミキリ

母子里：森ほか (1986)；1 ♂, 22-VII-1990.

- 18 *Anoploderomorpha cyanea* (GEBLER) ルリハナカミキリ

朱鞠内：森ほか (1986).

- 19 *Anastrangalia suquensi* (REITTER) ヨコグロハナカミキリ

白樺：月刊むし (1971)；日本鞘翅 (1984)；森ほか (1986)；母子里：日本鞘翅 (1984)；森ほか (1986)；1 ♀, 9-VIII-1986 (荒木)；1 ♂, 2-VIII-1987；蔭ノ台：1 ex., 4-VIII-1973 (石田)；1 ex., 1-VIII-1974 (石田).

(分布) 北海道からサハリン、シベリアに広く分布。日本からは、藤村 (1957) が上士幌町糠平から初めて報告。本調査地域からは月刊むし編集部 (1971) が報告。国内ではこの2地域しか記録がない。

(生態) 調査地域では7月下旬から8月上旬に採集され、エゾニュウ及びハシドイへの訪花が観察されている。個体数は非常に少ない。堀 (1990) はサハリンでの観察例として「ハナウド類やシモツケ類の花上に普通」としており、武田 (1992) はサハリンと本道の個体数の差について「本種は…生態的に他のハナカミキリと異なっていることもないので、分布域のはずれゆえ元来分布が薄いのであろう」と述べている。食樹は国内では未知だが、玉貫 (1942) はサハリンでの観察例としてトドマツを挙げ、武田 (1992) によれば大陸では針葉樹の枯木を食害することが知られている。

- 20 *Anastrangalia scotodes scotodes* (BATES) ツヤケシハナカミキリ

蔭ノ沢：1 ex., 16-VII-1991；白樺：日本鞘翅 (1984)；母子里：石田ほか (1980)；森ほか (1986)；1 ♀, 28-VII-1985；1 ♀, 2-VIII-1987；1 ♀, 22-VII-1990.

- 21 *Corymbia succedanea* (LEWIS) アカハナカミキリ

母子里：石田ほか (1980)；森ほか (1986)；渡辺 (1990)；2 ♂♂, 16-VIII-1983；1 ex., 1-VIII-1991 (菅原).

- 22 *Corymbia varicornis* (DALMAN) ブチヒゲハナカミキリ
 母子里：森ほか (1986)；渡辺 (1990)；1 ♂, 25-VII-1981；2 ♂♂, 9-VIII-1987；1 ♂,
 22-VII-1990；1 ex., 1-VIII-1991 (菅原).
- 23 *Konoa granulata* (BATES) オオハナカミキリ
 朱鞠内：1 ex., 4-VIII-1973 (石田)；母子里：石田ほか (1980)；森ほか (1986)；2 ♂
 ♂, 2 ♀♀, 25-VII-1981；1 ♂ 3 ♀♀, 16-VIII-1987.
- 24 *Leptura aethiops* (PODA) クロハナカミキリ
 母子里：森ほか (1986)；1 ex., 27-VII-1982 (石田).
- 25 *Leptura duodecimguttata duodecimguttata* FABRICIUS キモンハナカミキリ
 朱鞠内：森ほか (1986)；母子里：1 ex., 27-VII-1982 (石田)；1 ♀, 28-VII-1985.
- 26 *Leptura arcuata mimica* BATES ヤツボシハナカミキリ
 母子里：石田ほか (1980)；森ほか (1986)
- 27 *Leptura ochraceofaciata ochraceofaciata* (MOTSCHULSKY) ヨツスジハナカミキリ
 母子里：森ほか (1986)；1 ♂ 1 ♀, 22-VII-1990；1 ex., 1-VIII-1991 (菅原).
- 28 *Leptura latipennis* (MOTSCHULSKY) ハネビロハナカミキリ
 母子里：森ほか (1986)；1 ex., 14-VIII-1987 (荒木).
- 29 *Leptura vicaria* BATES フタスジハナカミキリ
 蔭ノ沢：1 ex., 16-VII-1991；母子里：石田ほか (1980)；森ほか (1986)；渡辺 (1990)；
 1 ♂, 6-VIII-1985 (荒木)；1 ♂, 22-VII-1990；2 exs., 1-VIII-1991 (菅原).
- 30 *Leptura regalis* (BATES) オオヨツスジハナカミキリ
 朱鞠内：森ほか (1986)；母子里：1 ♀, 14-VIII-1985 (荒木)；2 ♀♀, 16-VIII-1986；1
 ex., 1-VIII-1991 (菅原).
- 31 *Leptura thoracica* CREUTZER セアカハナカミキリ
 母子里：渡辺 (1990)；4 ♂♂ 1 ♀, 13-VIII-1983；3 ♂♂, 16-VIII-1983；3 ♂♂, 16-VII
 -1991, 5 exs., 1-VIII-1991 (菅原)；5 exs., 24~26-VII-1991 (石田).
- 32 *Oedecnema dubia* (FABRICIUS) モモブトハナカミキリ
 母子里：森ほか (1986)；1 ♂, 5-VII-1986.
- 33 *Strangalia takeuchii* MATSUSHITA et TAMANUKI タケウチホソハナカミキリ
 母子里：石田ほか (1980)；森ほか (1986)；渡辺 (1990)；9 ♂♂, 3 ♀♀, 16-VIII-1987；
 1 ♂, 4-VIII-1989；1 ex., 20-VII-1991 (菅原)；2 exs., 27-VII-1991 (石田)；1 ♂, 29-VII
 -1991.
- 34 *Paranaspia anaspidoides* (BATES) ベニバハナカミキリ
 朱鞠内：伊藤 (1973)；森ほか (1986).
- 35 *Corennys sericata* BATES キヌツヤハナカミキリ

朱鞠内：森ほか(1986)：母子里：6 exs., 21-VII-1991；4 ♂♂ 1 ♀, 25-VII-1981；1 ♀, 7-VIII-1988；1 ♀, 7-VIII-1988；1 ♂, 3 ♀♀, 16-VII-1991；1 ♀, 19-VII-1991.

36 *Necydalis major aino* KUSAMA アイヌホソコバネカミキリ

日本鞘翅(1984)：白樺：高桑(1971)月刊むし(1971)；蔭ノ台，藤田(1975)：母子里：小田(1978)；石田ほか(1980)；豊嶋(1981)；伊藤(1982)；森ほか(1986)；渡辺(1990)；2 ♂♂ 5 ♀♀, 16-VIII-1983；1 ♂ 3 ♀♀, 28-VII-1985；3 ♀♀, 10-VIII-1985；1 ♂ 2 ♀♀, 7-VIII-1988；2 ♂♂ 2 ♀♀, 14-VII-1990；3 ♂♂ 1 ♀, 19-VII-1990；1 ♂ 2 ♀♀, 24-VII-1990；5 ♂♂ 2 ♀♀, 16-VII-1991；26 exs., 24~30-VII-1991 (石田).

(分布) 北海道からサハリン，旧北区一帯に広く分布。日本からは高桑(1971)が本調査地域から初めて報告。国内ではこの他，上川町愛山溪(生平，1979)，遠別町上遠別(野上，1986)から記録されており，他にも未発表産地があるが，それらを含め天塩山地と大雪山系のみでの分布で，大雪山系は上記愛山溪のみで採集個体数は3頭にすぎない。北海道に分布するものは亜種として ssp. *aino* と命名されている。

(生態) 調査地域では7月中旬から8月中旬に採集され，ダケカンバの比較的新しい立枯や衰弱木の樹皮剥落部で交尾，産卵が観察されている。個体数は一般に少ないが，ときに1日で10頭以上採集されることがある。調査地域ではダケカンバの太い伐採枝からの羽脱が確認されており(竹内幸夫，私信)，シラカンバ立枯への飛来も観察されている。

37 *Necydalis gigantea* KANO オニホソコバネカミキリ

日本鞘翅(1984)：朱鞠内：森ほか(1986)：母子里：小田(1978)；1 ex., 14-VII-1983(石田)；1 ex., 4-VIII-1990(石田).

38 *Necydalis pennata* LEWIS ホソコバネカミキリ

日本鞘翅(1984)：朱鞠内：石田ほか(1980)；吉川(1982)；森ほか(1986)；露木ほか(1987)；白樺：月刊むし(1971)；蔭ノ台：森ほか(1986)：母子里：豊嶋(1981)；1 ex., 20-VII-1976(石田)；1 ♀, 14-VII-1984；1 ♀, 20-VII-1987(荒木)；1 ex., 19-VII-1991(菅原).

39 *Obrium nakanei* OHBAYASHI ナカネアメイロカミキリ

朱鞠内：1 ex., 2-VIII-1982(石田).

40 *Obrium brevicorne* PLAVILSTSHIKOV エゾアメイロカミキリ

朱鞠内：1 ex., 29-VII-1982(石田).

41 *Obrium tsushmanum* HAYASHI ツシマアメイロカミキリ

日本鞘翅(1984)：白樺：1 ♂ 1 ♀, 4-VIII, 1983.

42 *Obrium japonicum* PIC サドチビアメイロカミキリ

母子里：1 ♂ 1 ♀, 4-VIII-1983；1 ♂, 28-VII-1985；1 ex., 14-VII-1991(石田).

43 *Rosalia batesi* HAROLD ルリボシカミキリ

- 母子里：1 ex., 3-VIII-1985 (志藤).
- 44 *Aromia moschata ambrosiaca* (STEVEN) ジャコウカミキリ
朱鞠内：1 ex., 31-VII-1988 (荒木)；1 ♂ 1 ♀, 22-VII-1990；母子里：1 ex., 17-VII-1981 (石田), 1 ex., 31-VII-1988 (荒木)
- 45 *Chloridolum viride* (THOMSON) ミドリカミキリ
蔭ノ沢：1 ex., 16-VII-1991；母子里：石田ほか (1980)；1 ♂, 4-VIII-1985 (志藤).
- 46 *Palaecallidium chlorizans* (SOLSKY) アオヒメスギカミキリ
母子里：1 ♂ 4 ♀♀, 3-VIII-1983；8 exs., 8-VII-1984；6 ♂ ♂, 19-VII. 1986；4 ♂ ♂ 2 ♀♀, 22-VII-1986.
- 47 *Xylotrechus villioni* (VILLAARD) オオトラカミキリ
母子里：久保田 (1981).
- 48 *Xylotrechus hircus* (GEBLER) ムネモンチャイロトラカミキリ
朱鞠内：野田 (1975)；母子里：80 exs., 17-VII-1981 (石田)；6 exs., 21-VII-1991；1 ♂, 8-VII-1984；1 ♂ 1 ♀, 3-VIII-1985 (志藤).
- 49 *Xylotrechus salicis* TAKAKUWA et ODA ヤナギトラカミキリ
朱鞠内：小田 (1981)；1 ex., 6-VIII-1985；2 ♂ ♂, 14-VII-1990；1 ♂, 22-VII-1990.
- 50 *Xylotrechus rusticus* (LINNE) クワヤマトラカミキリ
Takakuwa, Oda (1978)；日本鞘翅 (1984)；鞠内：野田 (1975) 石田ほか (1980)；蔭ノ沢：1 ♀, 16-VII-1991.
- 51 *Xylotrechus cuneipennis* (KRAATZ) ウスイロトラカミキリ
朱鞠内：石田ほか (1980).
- 52 *Xylotrechus clarinus* BATES ツマキトラカミキリ
蔭ノ沢：1 ex., 16-VII-1991；母子里：石田ほか (1980)；1 ex., 1-VIII-1977 (石田)；2 exs., 3~4-VIII-1991 (菅原).
- 53 *Plagionotus purcher* (BLESSIG) コトラカミキリ
蔭ノ沢：1 ex., 16-VII-1991；母子里：1 ex., 8-VII-1984；1 ex., 31-VII-1988 (荒木).
- 54 *Clytus melaenus* (BATES) シラケトラカミキリ
母子里：1 ♂, 8-VII-1989.
- 55 *Cyrtoclytus caproides caproides* (BATES) キスジトラカミキリ
蔭ノ沢：1 ex., 16-VII-1991；母子里：1 ♂, 22-VII-1990.
- 56 *Chlorophorus similimus* (KRAATZ) ムツボシアオコトラカミキリ
母子里：芦田 (1985)；佐々木 (1986)；1 ex., 16-VIII-1987 (石田)；1 ex., 27-VII-1989 (荒木)；1 ♂, 4-VIII-1989；1 ex., 24-VII. 1990 (石田).

(分布) 北海道からサハリン、シベリアに広く分布。日本からは神谷 (1961) が足寄町から

初めて報告。本調査地域からは芦田(1985)が報告。その他、陸別町小利別(伊藤, 1980), 札幌市宮の森(草間, 1981), 津別町二又(長尾, 1983)から記録されている。うち、札幌の記録は1975年の1♀のみで、その後追加記録はない。

(生態) 調査地域では7月下旬から8月上旬に採集され、エゾニュウ及びハシドイへの訪花が観察されているが、個体数は非常に少ない。陸別町及び津別町ではときに多数採集されている。食樹は未知。

- 57 *Chlorophorus japonicus* (CHEVROLAT) エグリトラカミキリ
蔭ノ沢: 1 ex., 16-VII-1991: 母子里: 石田ほか (1980).
- 58 *Rhaphuma xenisca* (BATES) ホソトラカミキリ
蔭ノ沢: 1 ex., 16-VII-1991: 母子里: 1 ♂ 1 ♀, 28-VII-1985, 1 ♂, 22-VII-1990: 2 exs., 1-VIII-1991 (菅原).
- 59 *Mesosa myops* (DALMAN) ゴマフカミキリ
母子里: 3 exs., 4-VIII-1985 (志藤); 1 ex., 1-VIII-1991 (菅原).
- 60 *Plectura metallica* BATES アカガネカミキリ
母子里: 1 ex., 27-VII-1991 石田.
- 61 *Mecynippus pubicornis* BATES イタヤカミキリ
母子里: 1 ♂, 22-VII-1990.
- 62 *Monochamus urussovii* (FISCHER) シラフヨツボシヒゲナガカミキリ
母子里: 1 ♂, 17-VIII-1985 (荒木).
- 63 *Monochamus grandis* WATERHOUSE ヒゲナガカミキリ
朱鞠内: 石田ほか (1980): 湖畔: 石田ほか (1980): 母子里: 1 ex., 28-VII-1985 (荒木)
- 64 *Palimna liturata liturata* (BATES) ヒゲナガゴマフカミキリ
母子里: 石田ほか (1980).
- 65 *Rhopaloscelis maculatus* BATES フタモンアラゲカミキリ
母子里: 1 ex., 20-VIII-1988 (荒木).
- 66 *Terinaea atrofusca* BATES クリイロチビケブカカミキリ
母子里: 石田ほか (1980).
- 67 *Mimectatina divaricata* (BATES) ドイカミキリ
朱鞠内: 1 ex., 20-VII-1987 (荒木).
- 68 *Acanthocinus carinulatus* (GEBLER) カラフトモモブトカミキリ
母子里: 1 ♂ 1 ♀, 14-VIII-1988 (志藤).
- 69 *Acanthocinus griseus griseus* (FABRICIUS) スジマダラモモブトカミキリ
朱鞠内: 石田ほか (1980):
母子里: 3 exs., 14-VIII-1988 (志藤); 13 exs., 3-VIII-1985 (志藤).

- 70 *Leiopus guttatus* BATES ナカバヤシモモフトカミキリ
白樺：伊藤 (1972).
- 71 *Leiopus stillatus* (BATES) ゴマダラモモフトカミキリ
母子里：1 ex., 27-VII-1987 (荒木).
- 72 *Rondibilis saperdina* (BATES) トゲバカミキリ
母子里：1 ♂, 30-VII-1986 (志藤).
- 73 *Exocentrus testudineus* MATSUSHITA キッコウモンケンシカミキリ
母子里：石田ほか (1980)；1 ♂, 4-VIII-1985 (志藤).
- 74 *Saperda balsamifera* (MOTSCHULSKY) キボシマダラカミキリ
朱鞠内：西田ほか (1986), 19 exs., 15-VI-1985；母子里：塩崎 (1983)；4 exs., 8-VI-1986 (志藤).
- 75 *Eutetrappa ocelota* (BATES) ヤツメカミキリ
母子里：1 ex.：26-VII-1981 (石田).
- 76 *Eutetrappa chrysochloris chrysochloris* (BATES) ハンノアオカミキリ
朱鞠内：1 ex., 6-VIII-1985 (荒木)；母子里：1 ex., 27-VII-1990 (石田)；1 ♀, 13-VIII-1983；1 ♀, 4-VII-1984.
- 77 *Cagoshima sanguinolenta* THOMSON ハンノキカミキリ
母子里：1 ♀, 16-VIII-1987.
- 78 *Menesia sulphurata* (GEBLER) キモンカミキリ
母子里：1 ex., 28-VII-1981 (石田).
- 79 *Nupserha sericans* (BATES) ムネグロリンゴカミキリ
母子里：2 ♂♂, 16-VII-1990 (志藤).

引用文献

- 荒木 哲・松本英明・西田貞二・佐々木恵一・鈴木敏春 1988：留萌支庁苫前町の甲虫第1報. *jezoensis*, 15：81-94.
- 荒木 哲・石田浩司・佐々木恵一・志藤 宏・菅原 豊・鈴木敏春・西田貞二・宮田達美 1989：東川町江卸及びその周辺におけるカミキリムシ科の採集記録. *jezoensis*, 16：78-88.
- 芦田 久 1985：道北で採集したカミキリ2種の記録. 月刊むし, 178：4-5.
- 藤村俊彦 1957：カミキリ雑記. あきつ, 6(2)：41-44.
- 藤田 宏 1975：1973年7月, 北海道で採集したカミキリから. 月刊むし, 46：30-31.
- 船城保明 1987：愛山溪におけるカミキリ2種の記録. *jezoensis*, 14：112.
- 月刊むし編集部 1971：日本産ネキがまた1種増えた！. 月刊むし, 7：1.
- 堀 繁久 1990：サハリンの甲虫採集記録Iカミキリムシ科. *jezoensis*, 17：34-39.
- 石田浩司・川村剛一 1980：朱鞠内湖周辺のカミキリムシ科採集記録. *HORNET*, 18：36-39.
- 伊藤 淳 1973：北海道の珍しいカミキリ2例. 月刊むし, 30：48.

- 伊藤正雄 1972: 北海道北部におけるナカバヤシモモブトカミキリの採集例. 月刊むし, 12: 35.
- 伊藤 武 1980: ムツボシアオコトラカミキリの採集例. 月刊むし, 107: 36.
- 伊藤徳造 1982: スミイロハナカミキリの生態. 月刊むし, 137: 22-23.
- 神谷寛之 1961: 日本新記録のカミキリムシ. 昆虫, 29(1): 3.
- 環境庁 1979: 日本の重要な昆虫類—北海道版—, 76 pp., 環境庁.
- 北原 曜 1991: サハリンで採集した若干の甲虫について. jezoensis, 18: 24.
- 小島圭三・中村慎吾 1986: 日本産カミキリムシ食樹総目録, 333 pp., 比婆科学教育振興会.
- 久保田博道 1981: オオトラカミキリの興味深い行動について. 月刊むし, 130: 32-33.
- 草間慶一 1981: ムツボシアオコトラカミキリの採集記録と学名の変更. 130: 34-35.
- 森 正人・浅野正信・岡本宗裕 1986: 北海道産カミキリムシの分布 (1). ちくばきり, 1, 1-51.
- 長尾 康 1983: 北海道東部におけるムツボシアオコトラカミキリの採集例について. 月刊むし, 151: 30-31.
- 日本鞘翅目学会 1984: 日本産カミキリ大図鑑, 565 pp., 講談社.
- 西田貞二・毛利恒夫・佐々木恵一・鈴木敏春 1986: キボシマダラカミキリの採集例について. jezoensis, 13: 71-73.
- 野田佳之 1975: ムネモンチャイロトラカミキリとクワヤマトラカミキリの採集例. jezoensis, 2: 44.
- 野上和顕 1986: 天塩郡遠別町のカミキリムシについて. ちくばきり, 1: 105.
- 小田義広 1978: オニホソコバネカミキリがダケカンバ立枯れにも飛来. 月刊むし, 91: 30.
- 小田義広 1981: ヤナギトラカミキリとクワヤマトラカミキリの混棲地. 月刊むし, 123: 39.
- 生平清栄 1979: 愛山溪にて *Necydalis* を採集. jezoensis, 6: 57.
- 佐々木恵一 1986: 幌加内町母子里におけるムツボシアオコトラカミキリの追加記録. jezoensis, 13: 102.
- 塩崎圭子 1983: キボシマダラカミキリの採集例. 月刊むし, 152: 35.
- SIMARANGKIR, B. D. A. S 1987: Litterfall and decomposition process in sub-arctic forest zone in northern Hokkaido, North Japan. Res. Bull. Exp. For. Hokkaido Univ., 44 (3): 1041-1110.
- 高桑正敏 1971: 北海道に *N. major* がいた!! . 月刊むし, 6: 18.
- TAKAKUWA, & ODA, Y. 1978: Description of a New Species Allied to *Xylotrechus rusticus* (LINNE). ELYTRA, 6 (2): 49-52.
- 武田雅志 1992: サハリンにおけるカミキリムシ科の採集記録および文献による生息種目録. jezoensis, 19: 68-78.
- 玉貫光一 1942: 日本動物分類 10 (8) -15, 天牛科. 2. 花天牛亜科.
- 豊嶋亮司 1981: ホソコバネカミキリ属 2種の成虫活動について. 月刊むし, 119: 33-34.
- 露木繁雄・斉藤秀生・入江平吉・高桑正敏 1987: カミキリムシの魅力, 232 pp., 築地書館.
- 渡辺匡彦 1990: 北海道のカミキリムシ. EXIMIA, 2: 1-3.
- 吉川 賢 1982: カミキリ数種の食樹. 月刊むし, 133: 26-27.

Summary

The longicorn beetle fauna was surveyed in the area around Lake Shumarinai in the Uryu Experimental Forest of Hokkaido University. Seventy-nine species belonging to 6 sub-families were recorded.

The longicorn beetle fauna in this area was compared with those of two previously studied localities in Hokkaido, i. e., Tomamae and Higashikawa, and had two characters. 1) The species which inhabit only Hokkaido in Japan was rich. 2) The species which fed on *Picea glehnii*, *Abies sachalinensis* and *Betula ermanii* was rich, and that which fed on *Quercus mongolica* var. *grosseserrata* and other broadleaved tree species was poor. The fauna in this area must be influenced by the forest structure and the climate. i. e. 1) A few species of boreal forest trees were dominant. 2) The extremely low temperatures were found in winter.



写真-1 ヨコグロハナカミキリ(幌加内町母子里, 1987年8月2日, 鈴木敏春氏撮影)

Photo 1 : *Anastrangalia sequensi* (REITTER) (Moshiri, Horokanai, 2. August 1987 by T. Suzuki)

写真-2 アイヌホソコバネカミキリ(幌加内町母子里, 1984年7月31日, 鈴木敏春氏撮影)

Photo 2 : *Necydalis major aino* KUSAMA (Moshiri, Horokanai, 31. July 1984 by T. Suzuki)

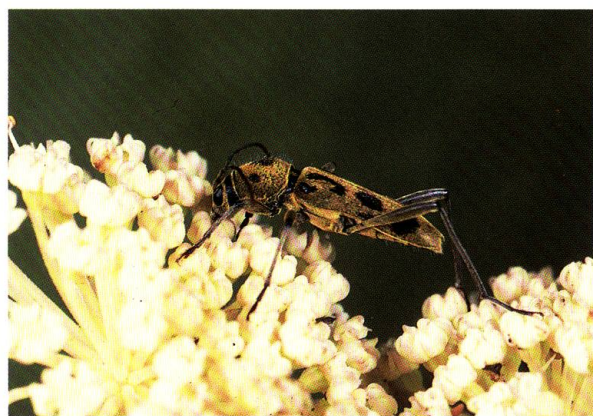


写真-3 ムツボシアオコトラカミキリ(幌加内町母子里, 1989年8月4日, 鈴木敏春氏撮影)

Photo 3 : *Chlorophorus simillimus* (KRAATZ) (Moshiri, Horokanai, 4. August 1987 by T. Suzuki)